

# 初 デジタル化



今年度から、図書館報の紙での発行をやめ、Google Classroomでの配信となりました。ペーパーレスやコスト削減は言うまでもなく、他にもメリットがあります。

## POINT 01 フルカラーでお届け

以前はモノクロだった写真やイラストを、カラーでお届けできるため、今までより一層分かりやすく華やかな印象のある館報となります。

## POINT 02 図書館のホームページに掲載

紙での発行だと紛失する恐れがありましたが、それもなくなります。図書館のホームページに掲載することで、いつでも見る事が可能になりました。

しかし、利点ばかりではありません。わざわざアクセスしなければ閲覧できないので、皆が必ず目を通してくれるとは限りません。それでも、少しでも多くの人に、バージョンアップした図書館報を楽しんで読んでいただくと幸いです。

### 文化祭・Book-Onを振り返って

今年度も古本回収にご協力いただきありがとうございました。短い回収期間にも関わらず、多くの本を寄付して頂くことができました。今年度も引き続き、制限のある招待となりましたが、大変多くの方々に来てくださいました。文化祭当日に来てくださった皆さん、ありがとうございました。



Thank you for coming!



甲南女子中学高等学校  
図書委員会編集  
図書館発行

神戸市東灘区森北町 5-6-1  
電話 078-411-2531

**目次**

P 1:初デジタル化,  
文化祭を振り返って

P 2:交流会  
(in 六甲学院)

P 4:交流会  
(in 灘校)

P 5:他校の書評

P 7:図書委員の仕事,  
編集後記

# 交流会 in 六甲

2022年7月16日(土)、六甲学院中学校・高等学校にお邪魔させていただき、他校の図書委員の皆さんと交流会を行いました。今回は神戸高校、神戸龍谷、六甲学院の4校が集まりました。この交流会ではゲーム形式の様々な企画を考えてくださっていました。

## ビブリオバトル

皆さんは「ビブリオバトル」をご存じですか？参加者たちが各自おすすめの本を1人5分の持ち時間で紹介した後、一番読みたくなった本（チャンプ本）を決めるというものです。私達は初めてのビブリオバトルでとても緊張しました。私はトーマス・トウエイツさんの『ゼロからトースターを作ってみた結果』、本校図書委員長の松尾さんは小川洋子さんの『博士の愛した数式』という本を紹介しました。残念ながらチャンプ本には選ばれませんでした。ビブリオバトルには新たに本に出会い、普段読まないジャンルの本も読みたくなってしまふ魅力があるのだと気づきました。

私達が実際に紹介した本



## 本カルタ

また「本カルタ」というゲームをしました。本に描かれている一文が読み上げられ、その本の表紙が絵札になっているカルタを一番多く獲得した人が「勝ち」というゲームです。読み札が読まれると「なんか聞いたことがあるけど、どの作品だったけ!？」と終始考えました。素早く札が取れた時はとても嬉しかったです。何故だか数学の赤本が紛れ込んでいたり...（それは本というのでしょうか？）。



次ページに「本カルタ」で実際に出た本を紹介していますので、ぜひチャレンジしてみてください。

# 本カルタ

ここで実際の本カルタをいくつか紹介します。  
 今回のジャンルは幅広く、近代小説から漫画、そして参考書まで!?  
 皆さんもぜひ挑戦してみてください!  
 ☆ルール：左の文章が出てくる本をそれぞれ右の選択肢から選んで下さい☆

## A

- 「料理は、見かけが第一である。  
たいていそれで、ごまかせます。」
- 「ぐっすり眠りたい欲望だけだ。」

## 1



## B

- 「猫ラーメン」
- 「彼女は私の理想とする黒髪の乙女そのものだった。」

## 2



## C

- 「きっと、そうか。」
- 「柱にとまっていた蟋蟀も、もうどこかへ行ってしまった。」

## 3



## D

- 「10進法で表された数6.75を二進法で表せ。」
- 「あなたの好きな自然数nを一つ決めてg(n)を求めよ。」

## 4



## E

- 「チャッピーを探しに行こ。」
- 「土屋ウサギかのボールペン」

## 5



解答は最後のページにあります。

# 交流会 in 灘

2022年12月21日(水)、灘中学校・高等学校にお邪魔させていただき、他校の図書委員の皆さんと交流会を行いました。灘校の方々だけでなく、甲南、神戸龍谷、甲陽学院、六甲学院の図書委員さんも来られて、6校合同での大規模な交流会となりました。

## 読書会『舟を編む』

今回は、三浦しをんさんの『舟を編む』を事前に読んで、作品についての考察や感想などを語り合いました。『舟を編む』は出版社の辞書編集部を舞台に、新しい辞書づくりに取り組む人々の姿を描いたお話です。章ごとに区切り、各々が気になったところなどを発表しました。登場人物などの話をしていると、その人物の印象が変わったり、自分独自の捉え方であったと気づいたり、一人で読書をするときや学校の授業で扱うときとは、また一味違った読書体験になりました。



## ゲーム「みんなで本をもちよって」

また「みんなで本をもちよって」というゲームを行いました。このゲームは、各々1冊持参した好きな本から「お題」に合う言葉を制限時間内に抜粋し、一番良かった人を選ぶというゲームです。例えば「ウサギの意外な性質は？」というお題に「邪悪に対しては、人一倍敏感（『走れメロス』より）」といった具合です。制限時間は1分半で、語調も考えて発表しなくてはならないので、難しかったです。工夫を考えるのが楽しかったです。



灘校図書館を  
少し紹介



畳発見!?

灘校の図書館のある小部屋、通称「古典の間」。古文漢文から近代小説まで、左右の壁いっぱい古典資料などがズラリと並べられた部屋がありました。そんな部屋の中にはなぜか畳が。ゆったりとしたこの場所で仮眠をとる方もいるくらい、灘校生にとっての憩いの場になっています。なんと冬にはコタツも出現するそうです…。(いいなあ。)

# 他校の書評



本校では毎月「のほ本」でおすすめの本を紹介していますが、他校でもこのような取り組みが行われています。そこで今回、他校の図書委員さんのおすすめの本や書評をいくつかご紹介します。協力してくださった六甲学院、灘高校の皆さん、ありがとうございます。

## ➤ 六甲学院さんの書評

### 『ネコもよう図鑑 色や柄がちがうのはニャンで?』

著：浅羽 宏 出版社：化学同人 489.53

「ネコってかわいいよね」 S.N.

猫はかわいい。これは  $1+1=2$  と同じくらい当たり前のことだが、ふとこんなことを思ったりしないだろうか。「黒猫って劣勢遺伝子だから少ないのかも。」え？あっ、思わない。そうですか。でも、いろんな色の猫がいるというのは思ったことがあるだろう。そんな猫ちゃんを見られるのがこの本だ。白や三毛、茶ブチなど様々な色のネコの写真と共に、何故 その色になるのかを遺伝子的な観点から解説している。ただし、そんなことが一切わからなくても、十分楽しめるので、君も勉強のストレスから離れてネコ様の可愛さに浸ってみてはいかがだろうか。



### 『絶対正義』

著：秋吉 理香子 出版社：幻冬舎 913.6/ア

「正義とは誰のために」 H.N.

見方を変えると一つの出来事も全く違ったものに映る。子犬を助けようと車道に出る行為は人道的だが、道路交通法 13 条に違反することになる。法が人を守り人が法を守るというように、ルールとは常に守るべきであるが、実際には横断歩道を赤で渡るなどちょっとしたルール違反と共に生きている。ルールは守るべきという通念と現実とは四角四面では生きられないという実情。この二つが対立した時あなたはどちらを優先するのだろうか。



## 灘校さんの書評

### 『図書館革命』

著：有川 浩 出版社：KADOKAWA 913.6/ア/4



議論を巻き起こす言葉がある。それは差別用語ではないのか、使用してよいのか、と話題となることがある。たとえば「床屋」がそうだ。意外かもしれないが、日々現金収入がある職業を軽蔑して表現したという「○○屋」という言い方は、現在では放送禁止用語となっている。「使用が推奨されない」のだ。しかし、自らの職業が「床屋」であることを、むしろ誇りに思っている人だって確かにいるのである。もちろん、「床屋」の使用を是とする考え方と否とする考え方のどちらも尊重されるべきだ。だからこそ「検閲」という行為の危険性が際立つ。「図書館戦争」シリーズでは、「図書隊」という組織の検閲との闘いを描いてきた。シリーズ第四作にして最終話になる（外伝除く）「図書館革命」では、ついに「表現の自由」が脅かされる。「原発テロのあらましと著作の内容が酷似していた」として、ある作家の活動が取り締まれそうになる...という所から物語が始まる。そして、現状を打開するために図書隊は「奇策」を打つ。彼らの「革命」が成功したのかどうか、ぜひ読んで確かめてほしい。

さて、「恋愛」という言葉がある。僕には縁がない言葉なので、あれこれ推測やら妄想やらを育むほかないが、この「図書館戦争」シリーズは、「恋愛」のあれこれを感じ取るのにぴったりな作品でもあるのだ（個人の感想です）。そもそも登場人物が魅力的だから、物語も面白くなるに決まっている。彼らの一途さや向こう見ずさには惚れ惚れとしてしまう。彼らの時折見せる優しさに胸がきゅんきゅんする。そして、終始にやにやとしてしまう。

「図書館戦争」シリーズは、そういったシリアスな要素とコメディチックな要素が上手く組み合わさってできている。しっかりとしたスポンジ生地にたっぷりと生クリームを盛り付け、甘酸っぱいイチゴを添えた、そんな本である。カモミールティーを添えて、ぜひお召し上がりください。（綿毛）

六甲学院さんの文は題名がついており、また灘校さんの文はペンネームでの投稿であるのが特徴的でした。学校によって、文の長さもそれぞれ異なっていました。本の紹介文を書くという同じ取り組みをしても、学校ごとに特色が表れていて面白かったです。また、他校の方々に本校の「のほ本」をお見せすると、毎度手書きであることに驚かれます。この交流を通して、他校と本校、両方の良いところに気づくことができました。昔から続く、手書きならではの「のほ本」の良さを、これからも引き継いでいきたいと思います。

※それぞれ六甲学院さんの『広報誌』、灘校さんの『読書尚友』から引用いたしました。


**図書委員の仕事について**


### <カウンター当番>

放課後に図書館のカウンター当番(貸出・返却)を行い、返却された本をもとの場所に戻すこともします。

### <Book-On>

文化祭で『Book-On』(古本市)をします。準備やレジの仕事を行います。

### <『のほ本』>

皆さんに読んでほしい本を紹介するために、各学年が紹介文を書きます。

### <蔵書点検>

図書館の本は、別の棚に移動して、「行方不明」になることがあるため、年に一回3月の家庭学習日などを利用して、図書の有無を確認し、正確な場所に並び替えています。

### <図書委員交流会>

図書委員の「仕事」という訳ではありませんが、私たち図書委員は「読書会」など他校の図書委員さんとの交流会に何度か参加させていただきました。

他にも、コロナ禍のため今年度は実施しませんでした。学校説明会のお手伝いもします。

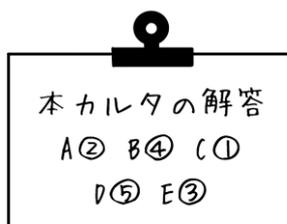

**編集後記**


館報を最後までご覧頂き、ありがとうございました。図書委員長としての一年間、物語に書けるような様々な経験をしました。大変だった事、嬉しかった事、悩んだ事、色々ありましたが、副委員長を含む多くの方のおかげで図書委員長を務めることができました。本で読むように客観的にこの一年間を振り返って、最後の締めくくりとして、この館報を出すことができ嬉しいです。一年間本当にありがとうございました。

図書委員長 松尾 仁奈

館報を読んで頂きありがとうございます。ずっと本嫌いだった私ですが、コロナ禍を機に読書を始め、気づけば図書副委員長に…。そのため歴代の委員長さん達より読書量は劣ることと思います。それでも私なりのスキルを活かし、館報を完成できたことを嬉しく思います。この館報が誰かの読書のきっかけになれば幸いです。

図書副委員長 石井 真衣



本カルタは正解できましたか??  
もし気になる文章があれば、  
ぜひ、本で読んでみてください!



一緒に活動してくださった図書委員の皆さん、サポートしてくださった先生と司書の方々、一年間本当にありがとうございました。